

令和8年4月19日(日) 《午前》 「日本の近現代史③」



今回の研修では「グローバル化と日本～戦後の復興から現在まで～」 「日本の近現代史を学んで～学びからのさらなる展望～」について学びました。

研修生は事前学習として、NHK高校講座Eテレ日本史の第38回「占領と国内改革」、第39回「国際社会への復帰と高度経済成長」、第40回「激変する世界と日本」と、「グローバル化と日本～戦後の復興から現在まで～」及び「日本の近現代史を学んで～学びからのさらなる展望～」についての講義をYouTubeで視聴

します。そして事前課題について事前学習ワークシートにまとめます。

事前課題は、「第二次世界大戦後、経済成長を遂げた我が国は日本国憲法の下、冷戦下及び冷戦後の国際社会において平和主義を掲げ、世界の諸課題の解決に取り組んできた。そして、今後はどのように取り組んでいくのか。このことについて、留学した際に出会う人々からどのような「問い」が出されるのかを考えてみよう。また、その「問い」に対してどのように説明するのか、戦後の日本の歴史とこれからの日本の国際的立場と役割を踏まえ、考えてみよう。」です。各研修生が、研修当日までに、事前学習ワークシートにまとめ、ロイロノートに提出します。

研修では、3つのグループに分かれ、研修生たちが事前課題についてまとめたものを、ロイロノートを活用しながら、熱心に協議しました。さらにグループ内で同じ「問い」を立てた小グループに分かれ、全体で発表・協議を行い、今後の国際平和に向けた取組について、さまざまな視点から知識や考えを深めました。

これまでの3回の研修で、研修生たちは、留学先のアメリカやカナダの歴史も踏まえた日本の近現代史について理解を深めるとともに、自ら問いを立てる力を養いました。

全3回の講座を受講し終えた研修生の感想には、「自国について考えを深められてよかった。この研修で学んだものとして、日本の近現代史における様々な歴史的事象が、今現在の日本、そしてこれからの日本がどうあるべきかなど、多角的に見ることができた。」「日本の歴史を深く学ぶことができてよかった。アメリカで積極的に日本の歴史を伝えようと思う。」など声が寄せられました。



令和8年4月19日(日) 《午後》 「ゼミナール③」



14期Bコース研修生は、4月19日(日)に第3回ゼミナール研究を行いました。今回は、第2回ゼミナール研究で行ったゼミナール研究アウトラインの協議内容を踏まえて、各自が再検討した研究アウトラインをグループで発表して協議しました。その協議の前には、事前課題として、視聴を行ったNHK for School「アクティブ10 プロのプロセス」第10回「分析のしかた」の動画についての振り返りを行いました。

ゼミナール研究は次のように進めました。(1)再検討した「研究アウトライン」及び「調査活動計画」に沿って一人ずつ発表する。(2)発表に対してグループの全員が<問題点・疑問点>、<優れた点等>を指摘する。(3)発表者は指摘を受けた問題点や疑問点について答え、グループ全員で改善点等について意見交換する。この発表、協議を一人16分ずつ行いました。

今回は、文献調査や関係機関を訪れるなどによって、研究テーマが明確になり、研究仮説も磨かれていました。そのため、研究仮説を実証するアンケートやインタビューの内容なども発表、協議でき、内容が充実したものになりました。各グループから1名、次の第4回の研修、ゼミナール研究アウトライン発表会のためのリハーサル発表を行うなどして、発表に向けた具体的な準備、発表改善等につながりました。

研修の最後に記入した「ゼミナール研究振り返りシート」には、今後の取組について、さらに調査をより具体的にして、実施していきたいという思いが多くの研修生からうかがうことができました。